

令和7年度 羽水高等学校 学校評価書

項目	具体的取組	成果と課題	改善策・向上策
1 教育課程 学習指導	授業内容の理解が深まるよう授業改善に取り組む。	・授業改善に積極的に取り組む教員の割合が、98%と目標(95)を上回り、授業内容を理解できている生徒の割合(目標80)、本校の学力向上の取り組みに満足している保護者の割合(目標80)についても、目標指数を上回っており、授業改善の取り組みの成果が現れている。	・公開授業や研究授業を通して授業改善に取り組む教員の割合を高水準で維持し、生徒の理解度に応じたわかりやすい授業を行なう。また、定期考査の他にも、一斉テストや単元テスト、パフォーマンステストなどを適切に実施し、学習内容の定着を図るとともに、主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善を継続する。
	家庭学習の時間を増やす働きかけを工夫する。	・家庭学習を毎日またはほぼ毎日行っている割合は、生徒全体では昨年に比べ微増した。3年生の頑張りが見られるが、依然、1・2年生は5割前後に止まっている。一方、家庭学習の充実をはかる手立てを行えたと回答した教師の割合は昨年と比べ11%増加した。eラーニングの活用等による学びの個別最適化を進めるなど、家庭学習時間の充実が求められる。	・各教科で家庭学習の充実を図る手立てを検討するとともに、一人ひとりの進路実現のためには家庭学習(予習・復習)が必要不可欠であることを学年・学級全体に、あるいは個人面談で繰り返し伝える。また、個々の生徒の適性に応じた課題を提示することや、学習時間を把握することなどを通して学習習慣の定着を図る。
2 生徒支援	登校や風紀のチェックを生徒自らが取り組める体制を作る。IT機器の利用に際しSNSやネット利用におけるルールを守ることや、薬物使用の違法性と危険性について周知啓発する。	・98%の生徒がSNSやネットモラルについて適切な使用ができていると回答した。保護者から見た子どもの適切な利用については、昨年度の44%から大きく変化し84%となった。その一方でルールを守らないスマートフォンの不適切な使用は減少しておらず、生徒、保護者とも自己評価が甘い可能性も考えられる。適切なSNSの使い方ができず、ネットモラルに関する知識不足も考えられるため、タブレット端末も含めた情報端末の使い方やルール作りを生徒会とともに制定、実施する必要がある。	・毎朝の登校指導や、学年会、学級担任との連携をより密接に行うことにより、挨拶の励行・時間の厳守・身なりの端正化などを継続的に指導していく。 ・情報端末の使用時間や適切な使い方を生徒自らが判断できるように、モラルや自主性を育てていく。全体指導だけでなく、家庭と連携しながら指導していくことも考えていく必要がある。タブレット端末の使い方についてもルール作りをした上で、根気強く行っていく。
	学校行事や部活動などに積極的に参加することによって自主自律の精神や自己肯定感を養う。	・教職員・生徒・保護者の学校行事や部活動に対する関心や取り組みは、いずれも90%以上の高い数値となっており、教職員については目標に迫る98%になった。感染症や熱中症対策を怠ることなく学校祭は以前のように実施することができた。学校祭後に感染症が発生することもなかった。今後も、学校行事や部活動は感染症対策を怠ることなく実施していきたい。	・高い意識で取り組む生徒が増えていと感じる。自主的に活動させる場をより増やしていきたい。生徒自ら感染症対策をした上で活動をしていくことが習慣となってきているようである。学習と部活動の両立ができる環境にし、自己肯定感を養うようにしたい。

3 進路支援	講演会、オリエンテーション、面接指導等を通して進路意欲の向上を図る	<ul style="list-style-type: none"> ・進路目標を持っている生徒の割合は90%で目標を上回っており、昨年度より2ポイント上昇している。また、本校の「進学指導」について、よいと考えている生徒は81%で昨年より7ポイント上昇している。 ・保護者対象進路講演会等に出席し、知りたい情報を得られたと感じている保護者は94%で目標指数を大きく上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒、保護者ともに具体的な進路目標を立て、その実現に向けた指導を続けていくことで、生徒が具体的な行動に移るような意識づけを進めていく。 ・どのような情報を保護者が求めているかを育成会と協力して調査するなどして、さらに有益な情報を提供していく。
	生徒の実態に即した進路情報、資料の提供を行い、その活用を促進する	<ul style="list-style-type: none"> ・進路関係の行事や面談を通して生徒に明確な進路目標を持たせることができたと思っている教員は92%で目標の90%を上回っている。 ・進路に関する配布資料を活用できている生徒は80%で昨年よりも7ポイント上昇し、目標の80%と等しくなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員会議後に進路指導に関する研修を実施する。 ・進路に関する配布資料が十分に活用できていないようなので、当該学年主任や担任団と円滑に連携を図りながら配布する時間の確保やタイミング等を検討する。
4 保健衛生指導	担任、部活動顧問、保護者、スクールカウンセラーとの密な連携や情報の共有を通して、生徒が抱える問題への早めの気づきと対応を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・心身に問題を抱え配慮を要する生徒に対しての教員への信頼度は、保護者98%、生徒99%と高い水準を保っている。その中でも各学年で、少数ではあるが、悩みを抱える生徒や集団の中に入れたい生徒がいるため、教職員はその状況を理解し、一人ひとりに応じた対応をしていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も担任、部活動顧問、スクールカウンセラー、さらに、外部の専門機関と連携し、保護者・生徒との意思疎通を図りながら、問題の早期発見・早期対応に努めていきたい。さらに、支援の必要な生徒について、全教員の情報共有に努め、生徒理解に関する研修会を行っていきたい。
	清掃指導の充実を図ることにより、生徒の協働意識を育成し、校内環境美化の意識を高める。	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日の清掃を「まじめに取り組んだ」と答えた生徒は、昨年より1ポイント多い98%、また、教員の清掃指導・監督に対する意識も98%であった。しかし、清掃が不十分と思われる場所を見かけることもあるため、より具体的な清掃方法を示す事が必要であると考えます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・清掃方法の明確化、清掃道具の維持管理、清掃場所の割り当て方、教員の配置等に配慮し、清掃しやすい環境を継続していきたい。また、自ら進んで清掃に取り組む姿勢が身につくよう、委員会活動等を通して、校内美化の意識向上(ゴミの分別、清掃の徹底等)に務めたい。
	生徒・教員共に、自主的な感染症対策の意識を高め感染症予防に務める。	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度に続き自主性を重んじた予防を促した結果、「感染症対策を実行している」と回答した生徒は89%と目標水準には達していないが、教員の指導は98%と高い水準であった。4月、11月、1月にはインフルエンザや新型コロナウイルス感染症の感染が多く見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も、基本的感染症対策(健康観察、手洗い、消毒、換気、必要に応じたマスク着用)を自主的に行うよう啓発するとともに、状況に応じては、学校が主導となり感染対策を確実にとれるようにしたい。

5 図書指導	朝読書週間、図書講演会の企画、図書館便りの発刊などを通して、生徒の図書館利用を促す。	<ul style="list-style-type: none"> ・「朝読書を通して読書に親しめた」生徒は87%で、昨年度の83%よりも増加した。これは朝読書週間に図書委員のおすすめの本を教室に設置したことが良かったと考えられる。 ・本を身近に感じていない生徒が1割ほどいる。生徒自らが「読みたい」と感じる本を広く把握し、充実させていく必要がある。 ・図書館便りでは、本の紹介や図書館企画の案内を通して読書意欲を高め、自ら本を選び、主体的に読書活動に取り組めるような情報発信に努めたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も朝読書週間前には本の準備を促すことに加え、図書委員のおすすめ本の紹介を試みる。また、図書委員が活動を通して自覚を強め、クラスでも積極的に図書館利用を発信できるよう指導したい。 ・ブックハンティングも広く参加を募り、蔵書の充実や利用促進につなげたい。
	生徒や教職員に必要な図書の充実に努め、情報提供を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の「読みたい本がある」、教職員の「読ませたい本がある」ともに目標指数を超えている。 ・生徒や教職員のリクエストに今後も可能な限り迅速に対応し、蔵書の充実に努めていきたい。館内の新書や話題の本だけでなく、季節ごとの本の特集にもPOPをつけることで、本の内容や魅力が伝わりやすくなったことが、目標指数達成の要因となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・蔵書の質を高め、図書館利用を促進するため、教科や教職員に対し希望する図書を積極的に受け入れ、充実させる。
6 外部との連携	育成会や同窓会活動の活性化を図るとともに、本校の教育活動について、プリント・広報誌・ホームページなどをおおして、家庭・地域への周知に努める。	<ul style="list-style-type: none"> ・本校の情報提供満足度(保護者対象)は目標指数を達成し高い数値を示している。今年度から育成会の活動をホームページに掲載した効果があったと考えられる。 ・本校の教育活動情報提供度(教職員対象)について今年度は98%で目標指数100%に達することができなかった。今後、本校教育活動の情報を、保護者・地域に対して丁寧に提供していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も、学校と家庭との連携を密にしていきたい。そのため育成会活動のさらなる活性化を図り、開かれた育成会として保護者の学校行事への積極的な参加を促すよう、会長も含めて役員の方に綿密に情報提供していく。 ・学校を側面から支える大きな力として、同窓会との関係を更に深めていくとともに、同窓会活動をより活発にしていきたい。
	中学校訪問や羽水journalの作成配布、ホームページ、ブログ、学校説明会などを通して本校の特色のアピールに務める。	<ul style="list-style-type: none"> ・十分行っていると感じる本校教職員の目標指数90%に対して98%という結果であった。この数値から、十分な情報提供ができていると読み取れる。 ・近年の本校受験者数や本校での学校説明会でのアンケート結果などから、中学生に本校の特色が十分に伝わっていると推察するが、この状態を維持・継続していくことが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本校教職員や在校生、中学校関係者の意見や感想を集約したり、校外の様々な団体のHPやパンフレットなどを参考にする。 ・本校で開催する学校説明会のバージョンアップをし続ける。
	海外の姉妹校との国際協働学習を進めるなどして、充実したプロジェクト学習を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・探究活動について満足している生徒の目標指数70%に対して93%という結果であった。この数値から、本校の取り組みが、大いに成果をもたらしていると読み取れる。 ・保護者が最も、さらに充実してほしいことについて、「熱心な探究活動」が3%から7%に上昇しており、一方で他校の探究活動のレベルが上がってきている中、先進的に探究活動を進めてきた本校としても、軌道修正を適時実施しながら、深化させる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・オンラインだけでなく対面も再開した姉妹校交流を、今後も続ける。常に指導計画の改善を心がけること、また探究の深化が望める外部との提携は積極的に活用することなどによって、プロジェクト学習を進化させる。

7 探究活動 の充実	効果的な研修の機会を提供し、教員が授業力や生徒指導力の向上に努める。	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研修が授業力の向上に効果的であったと感じる教職員の目標指数90%に対して、96%という結果であった。この数値から、授業力や指導力の向上に大いに成果があったものと読み取れる。 ・2学期制の定着とともに考査が年に4回に減り、校内研修の回数が制限される。教職員が校外での研修に積極的に参加できる方法を検討することが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・従来の定期考査の午後ではなく、今年度は少人数でも可として放課後に研修会をおこなった。このような機会確保の工夫を続ける。 ・教育総合研究所などの教職員向け講座だけでなく、他校や大学で開催される生徒・学生の探究発表会なども、本校生にフィードバックすることができる内容があるので参加を勧める。
8 人権教育の 推進	研修会、学校行事、ロングホーム等で体罰やいじめ等を含んだ人権問題を扱い、教職員や生徒の人権尊重の意識を高める。	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人ひとりの人権を大切に丁寧な教育活動をすすめており、学校評価アンケートにおいて、保護者・生徒の評価もそれぞれ97%、98%と高い数値となっている。昨年度と比較しても同程度の高い数値であった。教職員においての人権感覚を育成する指導の評価も96%と高く、今後も教職員の人権感覚を育成する意識向上を促したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人間関係づくりを意識し、生徒の満足度が高まる学級経営を推進していきたい。また、SNS等による見えにくく、容易に他人を傷付けてしまう情報環境であることに留意しなければならない。他者への中傷やいじめの防止を目指した人権意識の定着に努める。 ・生徒支援部、教育相談、学年会の連携を強めると共に、学校全体での人権感覚の意識を今以上に高めていく。